

大宮全国大会報告

全国大会

最大の4000名登録で盛り上がる



第15回商工会議所青年部全国大会
埼玉県商工会議所青年部連合会

会長 大村晴利

「直接交流」「直接共感」の国・県・市・区・町・村の「直接共感」の開催地である大宮市の「第15回商工会議所青年部全国大会」を大成功のうちに無事終了することが出来ました。これも偏に全国「JBO」メンバーの友情のおかげであり、協会を始めてとする商青連役員の方々のご支援、ご協力をお願いいたします。

名が毎年変わるなか、常に講義のお願いを言いつけて来た数多くの先輩の方々に感謝すると同時に、内語を頂いてから2年間に及ぶ準備の期間、埼玉県連1400余名の愛知と汗と涙を積み重ね、より強力なパワーに変わってきたことが成功への最大の要因であったと思っております。

「燃焼」でありました。色々な方々から意見を伺いしましたが、昨年同様大宮自身も1年間の時の流れ、時代背景として、と

うしても外すことは出来ません。また、その2として、前年開催地の長崎から受け継いだ「全国大会」の「大宮」を大宮で開催させるという思いを込めた「大会旗」の入場は、「Y.R.G.」を後援する比叐長のスローガンの意を込めて取り入れました。その表現として「商青連」による同業会組織に貢献することが出来たと思っております。

「協力」が得られ、大会史上初の4000名に達する程の登録者数となりました。この登録者数に満足したことは、まず第一にお客様ご提供の「協力」が得られ、大会史上初の4000名に達する程の登録者数となりました。この登録者数に満足したことは、まず第一にお客様ご提供の「協力」が得られ、大会史上初の4000名に達する程の登録者数となりました。

埼玉商工会議所青年部連合会の協力を得て、最後、言葉や体験をさせて頂いた。この全国大会開催に感謝し、更なる発展を期して、来年開催地の奈良Y.R.G.並びに平成8年度の「Y.R.G.」に心からエールを送りたいと思っております。本会にありがとうございました。



日商・稲葉会頭との懇談会



商青連 専務理事
石原 将宏

商青連出向者にとつて、日本商工会議所全国大会との懇談会は大きな幸である。この懇談会では、日本の経済界を代表する商青連の女性リーダーの視察と大宮市について、同青連特別委員長委員長の講話、Y.R.G.の活動状況について、そのほか、多岐にわたる懇談に、会場は1時間、時にはユーモアを交えお話しになりました。懇談会は和やかなものになりました。ただ、今年度開始している「商青連」については、自営業の経営自体を継承時代、「ベンチマーク」を構築しては駄目だ、と指摘されました。反響もあるようです。が、この言葉で、聞くくられましたが、説明申し上げてお話ししたかったところでした。

会場の言葉の響きに、日本経済の現状が、これほど厳しい状況に陥るまで、若くは若者への叱咤激励を受け、期待の大きな声と、おかしさを感ずるものを感じた。先達としての愛を感ずりました。

今後、この懇談会が回数を重ねる中で、より一層、後継者への期待を込めた商工会議所設立の精神が受け継がれる場となることを、本年産出される管理にお願ひして、報告させていただきます。

特集

YEG連携事業

13市町村が広域連携

八戸YEG

青森県八戸YEGでは、南部地方の地域振興と経済発展を図る事を目的として、13の市町村の南工業連携、商工会が中心となって発足した「南工業まちづくり推進協議会」に参画した。これは地域の壁を越え、各自治体と協力して広域連携を創る一つの例である。その具体的な事業としては、

①13市町村の特産品をまとめた「ナードラヤ通道」南部ふるさとフェア、②歴史と文化をテーマにした「ナードラヤ通道」ふるさと新発見フェア、③フェアイベント振興を兼ねて地域の歴

史的民謡サマシを推進する事を基本に展開された。このように広域連携は各地で実施されているが、課題も多く、特に官民一体となった民間が主体であるが民間サイドの行政権を踏えた活動に対し、市町村行政のより一層の深い理解が必要とされる。八戸では推進協議会発足から半年を経過し、徐々にその主旨が浸透し、行政が理解を深め、はじめているが、まだ調整課題も多く、その壁を青年部等の方で超え、息の長い事業の展開が期待される。



八戸YEGのアイスカーリング大会の様子

目指せコミュニティFMネットワーク

いっきYEG

福島県いわきYEGでは、而しては全国一広いいわき市においてその地域に密着した生活情報、市政情報、防災情報、観光情報や地域産業の活性化情報などを30万市民の唯一の共有メディアとして「地域情報」をテーマに「FMコミュニティ放送」に取り組み、本事業は同一地域において行政ばかりでなく、青年会、消防を含め地産生財を民間有志の協力のもと、団体の力を

超え地域活性化にチャレンジした事例といえる。この事業の実績は平成4年1月、いわきYEGより「サンシャイン21」より「1年構想」のなかで地域放送局の必要性をいわき市長に提言したこと、11月初めの年度を以て、翌年の7月から10月まで福島県に合せ「いわき市国体実行委員会」から市民参加の秋季団体の実現と出場

選手や市民、そして活れる方々への情報提供の役割を果たすべく、美談発表会、地域コミュニティの交流を促した。その経緯はいわきYEGが中心となった「Community Wave」FMいわき研究会である。

あり、それは市比から情報を吸収し、電波に乗せるところ、双方の情報発信が出来るようになり、地域情報交換ネットワークの構築の可能性が高まっています。そしてその活用が次代を創る若者に夢を植え、まちづくり事業としての意義を誇れるものとなります。皆さんも本事業に興味がある方は是非いわきYEGにお尋ね下さい。



FMいわき研究会の活動の様子



水鉄砲大会の様子

『疎水』をテーマにスクラム

大津YEG
京都YEG

明治時代初期、東京京都で建設された正統の街を活性化させるための方法を先人たちは考へました。その結果、明治10年に水通、福電、物流、かんがい、等多目的利用を目的とした「民間開闢水事業」に取り組みました。本業は5年間完成し、世界で初の水力発電の実用化に成功、京都には電灯が付き、市電が走り、上下水道が整備されるなど、今に繋がっています。明治の先人が考へたように、「開闢疎水」の今後の展望を高め、疎水連携事業として行政と共に、この利用促進を考え、観光産業や関連事業のより一層の発展を願っています。

ニューマンネットと未来にアクセス、

集えまほろば！ YEEG

平成8年度全国大会は奈良市で

平成8年度「第14回南工
会連青青年部全国大会」は
奈良県南工会連青青年部連
合会主催のもと、奈良市に
おいて開催させていただきます。

「奈良市」と言えば皆様は
まず何を思い浮かべますか
でしょうか？奈良県には
東大寺の「大仏様」をはじめ、
世界最古の木造建築で

有名な「法隆寺」、奈良公園
の「鹿」、正倉院「正倉院」
などの観光の世界へ、敷え
ればきりがなく、いろいろな伝統
芸術や文化史跡、土産品が
あるのです。

万葉のよるささ「奈良県」
はかつて日本の都があった
藤原京・平城京を擁し、日
本文化の発祥の地として今
もその歴史と伝統が色づい

ており、世界に誇れる国際
文化観光都市となっていま
す。

一方、私たちのよるささ
「奈良県」は21世紀に向かっ
て、今新たな役割を担おう
としています。平成8年9
月に開催した関西国際空港
そして現在も建設が進む関
西文化芸術交流都市として今
た国家的プロジェクトの完

成を間近に控え、歴史と文
化と先端技術が調和した
「未来都市奈良市」の創造
がテーマとなっているので
す。世界の人々が集いあえ
る、心豊かなコンベンショ
ン都市「奈良県」を目標し
て、今、21世紀の扉が開き
かかっているのです。

奈良県南工会連青青年部
連合会では、明日の地域社
会を支える青年団体のリー
ダー役として懸命にこのテ
ーマに取り組んでいます。

そんな私たちの活動も、全
国のYEEGの仲間に加って
欲しいし、また伝えられる
絶好の場として全国大会開
催を奨励することを、心
より喜んでおる次第であり
ます。

国内経済は停滞化、国際
化、高移民化、高齢化等
これらに積極的な対応
1環境におかれ、ますます
企業経営の方向づけが難し
い世の中になって参ります
が、企業と地域社会の交代

を担う青年経済人同士の在
いに安んずる深い連帯の輪を
広げることにより、豊かで
活力のある次の時代が創造
できるのではないでしょ
うか。

故きを温ねて新しきを知る
る、それがこの日本のふる
さと奈良県へお越しした
だき、何を新しい発見、其し
い奈良県を感じて下さる
私たちが心をこめてお待ち
しております。



大会実行委員長 乾 安彦

1996年.11月14日(木)~16日(土)

- 主催/全国商工会議所青年部連合会・日本商工会議所
- 主管/奈良商工会議所青年部連合会
- 開催地青年部/奈良商工会議所青年部



一年間、連携推進で奔走!!

平成七年度会長・辻 正敏

「改革の時代から、明日への
創造」の時代を経て本年
度活動は、「自律・自立・行
動」そして連携をキーワード
に、「結びつき、紙でつな
ぎ」YEEG連携時代代
をスローガンといたしました。

連携は、まず自会連と
存在基礎である地域の自律
（自立）から始まり、今までの
仕組みを継ぎ、広く国際交
信していく中に、その後口
が必要と存在する確信し活
動いたしました。

そのとろ、全国の商
会連出向の皆様の出身会議

所をはじめとして、延べ1
20を超える街を訪問させ
ていただき、いろいろなこ
とを教っていただきました。

また、新しい連携形態を
見せられた、米國視察研修
とそれぞれの思いを抱いた
「各地アロク大会」、少
数対象で南工会連会連名
の「短生巻」、初めて連青
の発展を促す、4000人
の参加をいいただくなか、後
南工、ビジネス交流プラザ
も好評だった埼玉商大空
の、「全国大会」、全国のY
EEG会長連に集まっていた

だき連携の支那と七年度体
制への継承を行った和歌山
視察で、中核視察会、若
幹々全国の会報が集中した
「全国コンクール」、YEEG
活動をより円滑に行うた
め最終まで活動の意見交換
の行われた「規約改正」、
連年においた「全国を奔走
した」「YEEG連携事業」の
発展活動、そして本誌「短
生」の発行等々、内外にア
クティブに活動した組織改
革年度でした。

4人体制になった視察会、
視察連青の要となった事

協理連、プロダク大会の基
礎となつたプロダク代表
理事、事業発展に精力をつ
ぎ込んだ委員長、委員会を
役員会を支えた理事の皆様、
要改を受けた結核の理事、
そして我輩なご意見をい
だした直樹会長・顧問、増
大する事務局に課長前二
せす取り組んでくれた日商
事務局の皆様、最後に南青
連に厚い声援と多大な協
力をいただいた全国のYEEG
の皆様にお心より御礼申し
上げます、ありがとうございました。

視察委員長のもと、楽しい
委員会でした。皆様のおな
げが一年たりつきました。
ありがとうございました。
横山安彦 文相志

初出向で組織等ゼロから
の組織でした。全国大会、
中核視察会開催地決定等財
は良い方向だと思います。
ご協力ありがとうございました。
同原和光 (福出)

連携推進した皆様、「協力
ありがとうございました。
一年間、楽しい活動委員会
でした。
漢島純司 (丸亀)

大西 栄(美郷)

は会長を始め、多くの人達
と色んな色んな事を争ひま
した。今度自分自身が常
務理事と参ります。本出
に集って一年でした。あり
がとうございました。
大西 栄(美郷)

大西 栄(美郷)

何ぞおみや、朝生の友
小野重信(武生)

古泉幸一(亀田)

感謝致します。

